Schedule ◎スケジュール

ワークショップ（WS）等	概　　要	日程／会場	
オープニングセッション 世界におけるフクシマ	各国大使館員により本国における「フクシマ」の発表を通じて、様々な「世界におけるフクシマ」を認識し、その認識のもと、今後どのような取組を行うことが、より良い相互理解につながるか意見交換を実施する。	25日（金）	13：00～15：00 公民館大会議室
高校生による演劇（パフォーマンス）	ふたば未来学園高等学校の学生による課題提示型の演劇パフォーマンスを披露した後、提示された課題に関して参加者によるディスカッションを実施する。		15：15～15：30 公民館大会議室
二つの被災地 ～熊本と福島～	東日本大震災での復興支援経験者であり、かつ熊本地震での被災者であるコンビーナーの経験と共に、パネリストの振り返りから、「被災地」という共通項をもつ熊本と福島におけるお互いに協力するための方策を検討する。		15：30～17：30 公民館大会議室
未来に向けて歩き出すために 海外専門家との個別対話からの本音	2015年9月に3名の海外研究者が、応急仮設住宅の住民と1対1で対話を実施した。異文化交流の中で引きだされた、広野町関係者も予想しなかった、被災地の復興に向けた住民の本音を、海外研究者を交えて語る。		15：30～17：30 公民館研修室1
復興公営住宅入居者との共生について考える	双葉地域初の復興公営住宅建設が広野町で開始されていることを受けて、先行事例などを参考に双葉地域内の共生を前向きに進めていくための課題解決を考える。		15：30～17：30 中央体育館 2F ミーティングルーム
ふたばの明日を考える会（非公開）	双葉8町村の各役場若手職員による「ふたばの明日」についての意見交換会。		13：30～17：00 楢葉町役場
ふたば未来学園高等学校を紹介します	地域と共にある「ふたば未来学園」を目指し、ふたば未来学園高校の学校紹介や本設校舎等の設計概要、生徒たちの学校への想いなどについて、現地から広くメッセージを発信する。		17：30～18：00 公民館研修室1
福島第一原発後の住民と専門家のダイアログ ー私たちは何を学んだのか?	IRSN〈放射線防護･原子力安全研究所（仏）〉として、双葉郡を中心とした被災地での取組の紹介及び今後の復興についての意見交換会。	26日（土）	10：00～12：00 公民館大会議室
海外の視点からの福島 軽食を食べながら考えよう	広野、いわき在住の外国人青年達が住んでみた福島を海外からの視点で語る。		12：00～13：30 公民館研修室1
30年後の故郷に贈る 福島県浜通り高校生ベラルーシ共和国視察報告	30年前に事故を起こしたチェルノブイリ原発周辺の汚染地域を今年の夏に福島県浜通りの高校生が訪問した。福島の未来を見据えその地で何を思い何を感じたのか? 発表や意見の交換を実施する。		13：30～15：30 公民館大会議室
福島をいかに海外とつなぐか ー情報発信者としての役割ー	海外メディア等の取材に同行通訳等を行った通訳案内士が海外という外のフィルターを通して気づいた「FUKUSHIMA」について発表し、それに基づき参加者全員によるグループディスカッションを実施する。		14：00～17：00 中央体育館 2F ミーティングルーム
被災地から「子守り」を考える@双葉ワールド	様々な立場で参加者がどのように「子守り」の意味を考えるか「てつがくカフェ」形式で対話し考えていく。		14：00～16：00 公民館研修室1
長きにわたる災害に立ち向かって 「希望」を語り継ぐ	今までの5年間の中でそれぞれの研究･支援活動で見えてきた被災地の現況と課題を報告する。被災地で暮らすことの「困難さ」から「希望」を参加者とともに話し合い、今後の提言となるものを探る。		17：00～18：30 公民館大会議室
「こころの復興」伝統行事の継承について考える	人と人のつながりの強化等の意義を再確認するため、「まつり」の再開についての意見交換会。	27日（日）	10：00～12：00 公民館大会議室
広野町中学生海外研修報告会 異文化コミュニケーションプログラム in カナダ	カナダを訪問した広野中学生による研修報告を実施する。		10：00～12：00 中央体育館 2F ミーティングルーム
双葉の農地と環境の再生 食と農の地域づくりを考える	帰還後における双葉郡での農地再生や食と農の地域づくりを考える。また、そのような場面において、どのように若い人たちの発想を生かしていくかについても意見交換を実施。		10：00～12：00 公民館研修室1
広野町のくらしと放射線	広野町の除染状況やふたば未来学園高等学校（社会起業部）とのコラボによる状況評価を発表する。		12：30～15：00 公民館大会議室
《サイドイベント》			
大茶会	二ツ沼公園茶室でのお茶会の体験。	25日（金）18：00～ 二ツ沼総合公園「清明館」	
パネル展示①	放射線相談室における取組をパネル展示にて紹介。	25日（金）～26日（土） 公民館小会議室	
パネル展示②	福島県における復興の現状を8町村を中心にパネルにて紹介。	25日（金）～27日（日） 公民館小会議室	
パネル展示③	福島通訳ガイドの会で、通訳等を行った結果作成された作品や相双地域スタディツアーなどをパネル展示にて紹介。	26日（土）17：15～18：15 中央体育館 2F ミーティングルーム	
セレモニー	食の安全のアピール･風評被害払拭のため、広野産の新米を使いつきたての餅を参加者にふるまう。	27日（日）午前 中央体育館前	
《クロージング》 27（日）16：00～			

国際フォーラム『被災地から考える』

□編集・発行／広野町復興企画課
http://www.town.hirono.fukushima.jp/

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

国際フォーラム
『被災地から考える』

International Forum “Thinking from Disaster Affected Areas”

2016年11月25日(金)～27日(日)
［報告書－概要版－］

2016年11月25日（金）から27日（日）にかけて「被災地から考える」のテーマのもと、国際フォーラムを開催しました。開催に際しては、平成27年9月に開催した「国際フォーラム『被災地・広野町から考える』～“幸せな帰町・復興”に向けて～ From “Early Return” to “Happy Return”」で発表された「『広野』からのメッセージ」を受け、「課題は広い地域を巻き込んで合意形成にかかる」ため、様々な関係者を交えて「被災地」にてFUKUSHIMA（福島の原発事故の被災地）全体の復興に向けて考えることとしました。

被災地における様々な課題について議論するため、昨年度の取り組みを発展させ、広野町だけに留まらず、双葉地域の有志や被災地で活動している専門家からなる「企画・運営会議」を設けて検討を重ねました。

期間中は、17のセッションにおいて、双葉地域を中心とした被災地における課題を海外からの招聘者を交えて議論しました。

その結果、最終日には参加者の総意としてメッセージを発表することができました。

http://www.town.hirono.fukushima.jp/kikaku/kokusaiforam.html

福島県広野町

主　　催：国際フォーラム企画・運営会議
共　　催：東京大学アイソトープ総合センター、福島大学、東日本国際大学
　　熊本学園大学、福島工業高等専門学校
後　　援：カナダ大使館、フランス大使館、福島県、いわき市、復興庁福島復興局

オープニングセレモニー（25日・公民館）

レセプション（24日・二ツ沼総合公園）

二つの被災地～熊本と福島～（25日・公民館）

復興公営住宅入居者との共生について考える（25日・中央体育館）

大茶会（25日・二ツ沼総合公園）

海外の視点からの福島（26日・公民館）

福島をいかに海外とつなぐか（26日・中央体育館）

高校生による演劇（25日・公民館）

海外専門家との個別対話からの本音（25日・公民館）

ふたば未来学園高等学校を紹介します（25日・公民館）

福島第一原発後の住民と専門家のダイアログ（26日・公民館）

高校生ベラルーシ共和国視察報告（26日・公民館）

福島をいかに海外とつなぐか（26日・中央体育館）

国際フォーラム「被災地から考える」メッセージ

「被災地から考える」のテーマのもと、平成27年9月に発信した「被災地・広野町」からのメッセージを受け、被災地における様々な課題について議論するため、今回、国際フォーラムを開催しました。開催に際しては、昨年度の取り組みを発展させ、広野町だけに留まらず、双葉地域の有志や被災地で活動している専門家からなる「企画・運営会議」を設けて検討を重ねてきました。
今回、はじめて海外からの専門家が主宰するセッションが開催されたことの意味は大きく、今後もそうした場面の確保に努めていきます。

11月25日から27日までの間に、17のセッションにおいて重要なテーマについて参加者を含めた議論の末、次のような被災地の復興に向けた教訓を得ることが出来ました。

1) 発災より5年8か月が経過し、被災の程度の差により分断されていた地域が、それぞれの課題解決に取り組む中で、共通の課題が見えてきた。そうした中で、双葉八町村から中堅職員が集まった取組が行われ、成果を取りまとめたことは特筆に値する。また、そのような取組を更に推進するためには、住民が行政に対応を暗黙のうちに求めない対話の場を設定することなど、幅広い活動が期待される。

2) 復興を推進している地域社会において、復興公営住宅が双葉地域に建設が開始されるなど、新たな地域社会の姿が具体化し始めている。そうした中で、地域づくりをどのように行っていくか住民全員が当事者として、考え行動することが求められている。変化する地域社会の中でそれまでにあった地域の良さを取戻し、発展させていくため、地域の活動を相互に連携する取組を進めていきたい。

3) 今年4月の熊本地震に代表されるように、今年だけ見ても様々な「被災地」が生まれた。被災地間では、相違はあるものの、共通点も多い。しかし、被災地間における情報共有が十分ではないこと。また、この状況は被災地間に留まらず、被災地内の地域間でも起こっていること。この問題を解決するために、海外などの「被災地を見る目」を活用し、被災地住民が気づき、情報共有を推進した上で、課題対応にあたるべきである。

4) 国内外の被災地福島への関心は薄れつつあり、福島に関する報道は、現実に反するものが見られる。今後は持続的かつ積極的な多言語による正確な情報発信が重要である。我々は、そうした偏った報道によるイメージを単に払拭するのではなく、逆にそのイメージをしっかりと受け止め、世界にエネルギー戦略、地域再生モデルといった新たな理念を提案・実施する存在を目指すものとする。

5)「被災地を見る目」は多様であり、一概に「海外」という言葉で括った中にも、多様な国や地域が存在し、それぞれが自国の立ち位置を踏まえた「被災地を見る目」を持っている。その目は、実際に被災地に足を運び、実情に触れることで大きく変化していくものと考えられる。また、そうした目が、被災地住民に新たな気づきをもたらすことが期待できる。

このため、外国語による情報発信に努め、海外から被災地を訪れる機会を増大させると共に、福島特例通訳案内士などと連携した取組を目指すものとする。

6) インフラ整備などの物的な復興は重要であるが、「こころの復興」が今回はじめて取り上げられ、祭りが持つ大きな力について、初めて気づかされた。今後、私達はそれぞれの地域の祭りの再興を地域住民の参加のもと進めていきたい。

以上の教訓から、海外を含めた「被災地を見る目」との交流、適切な情報発信が「被災地から考える」上で非常に重要である。　我々は、これまで主にそれぞれの被災地で行ってきた課題対応について、地域間での連携を図ることも不可欠であると考える。

平成28年11月27日

国際フォーラム「被災地から考える」
参加者一同

2015年ノーベル物理学賞の梶田隆章氏サプライズ参加（27日・公民館）

被災地から「子守り」を考える@双葉ワールド（26日・公民館）

「こころの復興」伝統行事の継承について考える（27日・公民館）

双葉の農地と環境の再生（27日・公民館）

セレモニー（27日・中央体育館前）

クロージング（27日・公民館）

長きにわたる災害に立ち向かって「希望」を語り継ぐ（26日・公民館）

広野町中学生海外研修報告会（27日・中央体育館）

広野町のくらしと放射線（27日・公民館）

パネル展示（25～27日・公民館）